

令和4年12月31日

地域密着型サービス 運営推進会議 報告書

施設名：グループホーム・ひなたぼっこえびすヶ丘

施設種類：認知症対応型共同生活介護

12月の運営推進会議は、コロナウイルス感染拡大防止の為、事前にホームの状況等を書面で送り、後日皆さんから意見を聞き運営推進会議開催に変えることにした。

【入居者状況】

入居者9名（女性 9名 男性 0名）

平均年齢 90歳 平均介護度 2.1

【活動状況】

- ・ 散歩・日光浴・ドライブ・体操
- ・ 計算ドリル・新聞折り・雑巾縫い・
- ・ 壁画作り・刺し子
- ・ 行事～芋掘り・紅葉ドライブ

【事故・ヒヤリハット・苦情】

- ・ 事故 4件（転倒）

- ・ ヒヤリハット 0件

【その他】

*身体拘束適正委員会

- ・ 身体拘束等はなし

*研修

- リスクマネジメント研修
- 虐待防止研修
- ケアマネ更新研修

*災害訓練実施（風水害）

- 風水害はホームが高台で安全区域にてホームに留まる事を想定した訓練を行った。
- 夜間帯で停電になった時を想定し、非常灯は短時間で切れる為、懐中電灯を2階・1階廊下に置き、夜間入居者の方がトイレに行かれる際、足元を照らし転倒を防ぐようにした。
- 非常食の確認を行い、期限切れや足りないものや追加するものはないか確認した。
- 万が一の避難に備えて、避難準備物品を職員全員で確認した。
- ホームが高台にあり、風が強い為、暴風による窓ガラスの破損に備え、養生テープ購入した。

*面会等について

- 面会制限は継続中だが、ドア越し面会を行っている。ドアがある事で会話が聞き取りにくい為、職員が所々そばにつき、会話が繋がるようにしている。
- ご家族の方と自由に会えない為、ストレスがある方もおられる。面会については対面で出来るような方法の工夫が必要である。コロナ対応も必要ではあるが、入居者の方やご家族の方の思いに寄り添う行動は施設として必要な事だと感じている。

*転倒事故が続いている事について

- コロナ感染予防もあり、外出が減っている。（以前は買い物や地域行事への参加あり）施設内で過ごす事が主となり、全体的に身体機能の低下がある。ホームの中で体操や下肢訓練を行っているが、動き自体が少なくなっている。
- 日中より夜間帯トイレに行く際の転倒が多くなっており、転倒リスクが高い方はすぐに介助に行けるようにしているが、一人夜勤の為、介助が間に合わなかったり、同時に介助が必要になる時があり、対応が追い付かない面もある。居室内の環境を整えたり、安全に排泄できるよう工夫しながら対応している最中である。

【意見】

- 転倒が心配されることはありませんが、職員間で原因と対策についてはしっかりと共有されていると思います。その後の経過については次回以降報告していただきたい。
- 面会については、入居者の方やご家族の方の気持ちと感染防止対策との間で悩んでいる施設は多いようです。これまで同様、入居者の方やご家族の方の気持ちを受け止めながら、感染予防対策への理解をいただけるよう丁寧な説明をしていく事が大切だと思う。
- 年末に地域でしめ縄教室を行う予定であったが、コロナ感染予防のため、中止を決定した。来年は出来ると良い。
- 転倒は自宅で生活していても起きる事もあるので、仕方がない面もあるが、対応や環境の工夫を行う事は良い事だと思う。